



いきがい大学伊奈学園専科一期の会

(初代、四代会長 令和2年12月19日逝去)

# 田中忠さんの踏み跡



岡村昭則

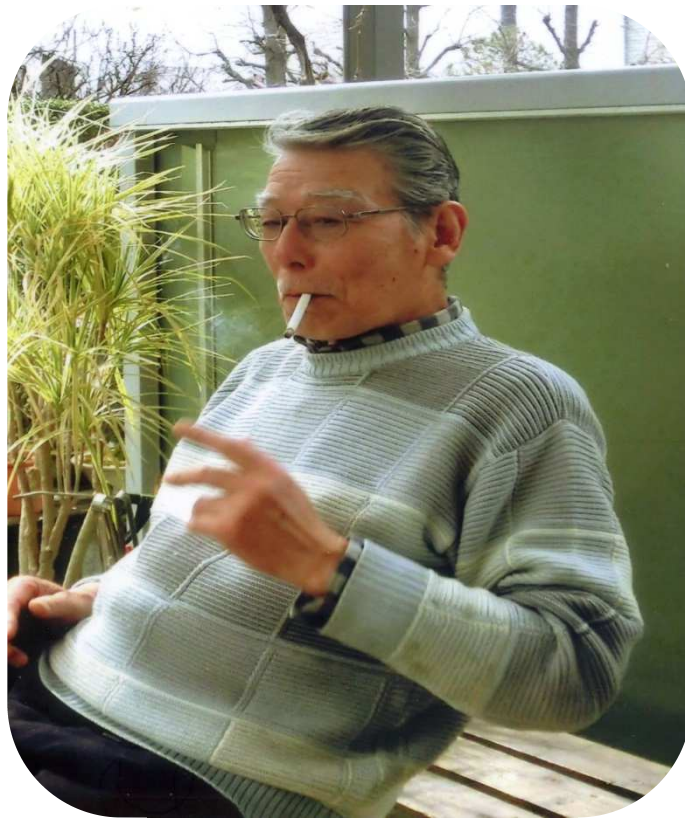
## 専科一期の会 田中忠さんの踏み跡を作成するにあたって

私と田中さんの出会いは、専科一期生として入学し、役員を決める時に、私は既に「さいたま市シニアユニバーシティ大宮校」のHPを管理しているので、専科一期のHPに携わりたいことや、自分のHPを立ち上げたいことから一番先に手を上げてHP委員に立候補しました。次に田中さんも自治会の役員をしており、自治会のHPを立ち上げた思いもあってHP委員に立候補しました。二人とも自分たちの目標が決まっているので、HP講習会ではよく勉強したことは言うまでもありません。卒業時までには、曲がりなりにも私が「わが青春」、田中さんが「南栗橋五丁目自治会」のHP立上げに成功しました。

この間にも学園祭や卒業文集の企画を私が行えば、田中さんがサポートしてくれたことから、どれも成功裏に終わったことは言うまでもありません。卒業近くになると校友会立上げということになり、私が二年制18期校友会会長の田中康勝さんに校友会設立のアドバイスを受け、下書きをして田中さんに相談し、専科一期校友会は郷土コースで引っ張るといって初代の会長を田中さんに引き受けていただいた経過があります。当時、田中さんも65歳というバリバリの歳なので、最初の理事会で「校友会最初の理事会の挨拶で専科一期校友会は、伝統を作るという役目が否応になくあります。学園の皆さんからも注目されていることでしょう。荷が重いと思いますが、みんなでその役目を果たしていきます」と挨拶されているように、校友会の基礎作りに全力で当たっていました。ホームページ委員の傍ら、専科合同ハイキングクラブ・専科合同グラウンドゴルフクラブ立上げに参加されて、奥様の介護の合間にクラブ活動に参加され軌道に乗るまで先頭に立って活躍されてきました。

伊奈連協に加盟してから専科コースに負担のかかる運営を始めたので、私が公開質問状を出したりして、伊奈連協や伊奈ネットクラブからも睨まれましたが、専科一期校友会はアンケートの結果を受けて伊奈連協退会することになり、臨時総会も4代会長の田中さんに取り仕切ってもらいました。それからは専科合同の行事に力を入れてきました。社会情勢の流れからいきがい大学もこれまでの運営で立ち行かなくなり、専科コース廃止、二年制コース廃止して、専攻科創設しましたが、4年間で廃止しとなってしまった。「退職後いきがいを持ってもらうためにボランティア養成のいきがい大学」として昭和51年度に設置され、令和元年度まで続けてきましたが、ついに44年間の幕を下しました。そのためボランティア活動の後継者の育成が起たれてしまったため、ボランティア団体を統括したイナ・ヴォイスの事業活動も終了へ、ボランティア活動の広報を担当していた伊奈ネットクラブも令和3年6月でホームページ閉鎖に追い込まれてしまった。

伊奈学園卒業生のほとんどの校友会が解散している中で、私達の専科一期校友会が今日まで続けているのは、田中さんが校友会最初の理事会の挨拶で「伝統を作る」という力強い挨拶から始まり、途中での校友会の改革では、1964年東京オリンピック強化選手でもあり、国体にも出場しているスポーツマンの田中さんから東京オリンピックまで続けようとの提案もあり、その実現に向けて会員一同がまとまり今日に至っています。そのオリンピックもコロナ感染の影響で1年延期したものの、実現も不透明な状況に置かれています。そのような世情の中で田中忠さんは旅立ってしまいました。私は田中さんとの友情を顧みて、ここに伊奈学園で活動された田中さんの踏み跡をまとめて墓前に捧げることにした次第です。「★遠き日の君の青春（東京）オリンピック」合掌 令和3年1月4日



●専科一期自HP（21年度）は、伊奈いきがいネットクラブ会長の鈴木進さんに立ち上げていただき、自治会活動1年間の活動記録等の掲載もお世話になり、感謝あるのです。



## 思い出の学園生活

彩の国いきがい大学第一期専科コース校友会のサイトへようこそ

いきがい大学伊奈学園専科コースの学生は、平成22年3月15日に卒業しました。今後は、学園での学習成果を活かし、地域に社会に活動の場でお目にかかることを楽しみにしております。今後もご指導よろしくお願い申し上げます。

なお、専科コースのホームページは「専科1期の校友会」ページとして、引き続きみなさまへの情報発信をしてゆきますので、在学中同様よろしくお願い申し上げます。。

H22.3.15ホームページ委員一同

いきがい大学伊奈学園専科コースは、平成21年度から開設された一年制課程コースで、従来の一年制課程よりも、より実践的な学習につとめ、社会の変化に対応できる能力を身につけ、社会参加による生きがいを高め、卒業後は地域活動のリーダーとして、活躍することを目的としています。

わたくし達は、専科コースの学生として、①学習 ②学生自治会活動 ③クラブ活動の3つを通して、いきがいと活動の喜び、仲間づくり、そして学習の成果をこのページに掲載してゆきます。

高齢化社会にあって、元気に活動するわたくし達を、レポートしてゆきますので、おたのしみこ！



いきがい大学入学式



いきがい大学伊奈学園



始業式

いきがい大学の入学式は4月17日さいたま市文化センターでおこなわれました。専科の始業式はいきがい大学伊奈学園(県民活動センター：伊奈町)で4月20日におこなわれました。

・ゴルフ好きのあなたに「伊奈ゴルフクラブ」から会員募集です。	H22.3.19
・ <u>専科1期生終業式行われる。3月15日には卒業式がありました(3月9日ゼミ2)</u>	H22.3.10
・ <u>第1回いきがい大学伊奈学園ボランティア活動発表会(イナ・ヴォイスフェスティバル)2月5日開催</u>	H22.2.19
・ <u>上田知事も駆け付け支援された、彩の国・浮きウキフェスタで浮島作りに参加しました。</u>	H21.11.8
・ <u>第20回学園祭、華やかに開催(H21.10.21,22)</u>	H21.10.24
・ホームページ委員が、ホームページの技術習得の講座を受講。(夏季休暇中の講習会で猛特訓)	H21.8.12
・ <u>「みんなの広場」を開設。皆さんのホットなニュースを掲載します。</u>	H21.7.14
・ <u>専科1期自治会総会開催(H21.5.26)</u>	H21.5.26
・ <u>一年制専科コースの新たな仲間達が始動</u>	H21.4.20
・ <u>彩の国いきがい大学入学式举行</u>	H21.4.17

ページのトップへ

## ●彩の国・浮きウキフェスタ (H21. 11. 08)

「浮島づくり」に参加しました。11月8日に行われた「彩の国・浮きウキフェスタ」は、川の再生をテーマに権現堂公園で催されました。伊奈学園いきがい大学の有志は「浮島づくり」に参加しました。14期生・本田さん（さつて市民境ネット代表）のお誘いで実現したものです。20期・中山さんの的確な指導により、見事な浮島が出来上がり男女20名は気持ちのよい汗をかかせていただきました。午前の部で8基、午後の部では6基の浮島が完成しました。この浮島は、行幸湖（権現堂調整池）の水質を改善するとともに、水中生物のオアシスになることでしょう。H21. 11. 08 文・写真 HP 委員 田中忠



本田浮島づくりの総監督



3.5m6本の杉と13本の猛宗竹の筏



袋にはアシの根と木炭



筏完成まじかです



大勢乗ってもこのとおり、頑丈です



上田知事も駆け付け水の大切さを力説

平成21年郷土を知るコース・施設めぐり



H21.6.23 行田市・忍城



H21.6.23 さきたま古墳めぐり



H21.7.7 あいたま市・築野水田神社



H21.7.21 あいたま市・風立文書館



H21.9.29 鈴鹿市・水澤寺



H21.9.29 鈴鹿市・田宮陶製美術館

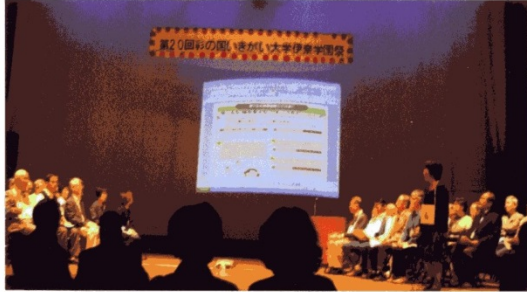


H21.11.17 川越小江戸めぐり



H21.12.15 川口市・花と緑の歴史センター

彩の国いきがい大学伊奈学園  
第20回学園祭・専科「郷土を知るコース」寸劇と展示作品  
(H21. 10. 21~22)



●在学中、歴史好きの田中さんは天谷さんのサークル中山道ウォークに参加していました

### サークル 中山道ウォーク

天谷 範夫

いさがい大学伊奈学園の、学園生活にも少しづつ慣れてきて、何か物足りなさを感じていました。学園での学習の他に、プラスα的な事は出来ないかと考え、中山道の、宿場を中心として、史跡と施設見学を抱き合わせた形で活動しようと考えました。入学時の隣席だった、相場さんと有村さんを後見にお願いして、7月のホームルームの時間に主旨説明をさせていただき、9月から活動する事としました。又、より多くの方に参加していただける様に会員登録とせず、自由参加にしました。結果的にはこの方式で良かった、と思っています。昨年12月までに、まだ3回しか活動出来ていませんが、卒業迄にもう3回(番外もあり)又、卒業以降も継続する予定ですが、逆に続けて欲しい、との応援もあり心強く思うと同時に、みなさんに支持されて、やって良かった、と思っています。中山道ウォークとしては、3月でいったん終了し、4月からは日光街道を中心に活動し、中期的には、大宮以南の中山道や、埼玉県内の市町村を中心としての街巡りや、街歩き、又もう少し距離を広げて群馬、栃木、千葉、茨城、東京なども射程範囲として計画したいとの思いも有ります。(先の話ですが)これからも、いろいろ計画していきたいと思っていますので、気楽に参加していただきたい、と思っています。



鴻巣市 勝願寺にて



●在学中、陶芸クラブにも所属していました

陶芸部の報告

専科一期陶芸クラブ

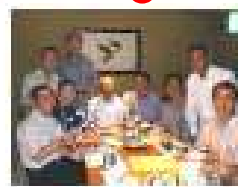
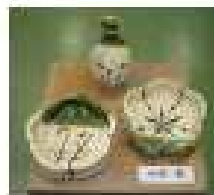
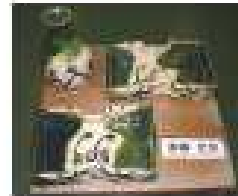
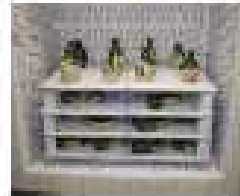
陶芸クラブはスタート時に花の乙女1名に髄膜炎で逃げられたが、残りの男ばかりの9名が小沢部長の下、何とか無事に卒業まで活動できた。途中、斎藤氏が思いがけぬ利き腕の故障で不便な作陶を強いられたが脱落せずに頑張って(先生の助け?もあり...)同じように作品を作り上げた。

窯入れは3回しか出来なかったが、木目角皿、輪花鉢、茶碗、湯呑、ぐい呑、丸皿、徳利、織部皿などの作品が出来上がった。しかし、各人各様ながら満足感はその所で反省点や悔しい気持ちの方が強かったのではないだろうか。なにしろ先生の指導は月に2回なので何もかも急ぎ足で通り過ぎた感じであり、基礎の土捏ねもほんの僅かしか体験できなかったが、先生にすれば1年間なので出来るだけ多くの作陶を経験させようとの親心だったのであろう。しかし、我々の思いとしては何もかも中途半端な成果だったような気がする。

何しろ全員が初心者なので全てが初めて、なんと土とは扱いにくいものか.....、まるで女性みたいじゃないか.....というのが率直な感想?(別に女性を非難しているのではないのであります、感嘆しているのであります)。電動ろくろを回していると、筒形で回っていた粘土が急に、くにくにくよとなってしまうと、"せんせーえ"と助けを呼ぶのはまるで幼稚園の生徒みたいだ、と感じたものである。

それでも飽き足らぬ思いが強く、多くが更にクラブを続行したいとのことで今後もクラブ継続を決意、但し人数確保の為もあり同じく卒業する19期のクラブと合同で今後も作陶に励もうということとなった。皆さん、二年後、三年後の我らの作品にご期待あれ!!

( K記 )



## 4 班の紹介

### 歴史好きの方々と素晴らしい出会いがありました このご縁を大切にこれからも付き合っていきましょう

私達の班は学籍番号25番から32番までの8名の構成です。名前も覚えないうちに班の役員選出になり、理事はアミグ籤引きで決めましたが、ホームページ委員は田中さんに引き受けてもらい学園生活が始まりました。他班同様4班も2回ほど楽しい懇親会を重ねた他、他班との懇親も行い交流を図りました。また懇親会のなかで8名中5名が初めていきがい大学に入学したこともわかり意外にいきがい大学出身者が少ないのには驚きました。また、学園生活最大のテーマの学園祭での役割分担には積極的に参加いただき感謝しています。

4 班の特徴は「郷土を知るコース」の学生ですから当たり前かも知れませんが、授業及び懇親会でもその一端の披露がありました。郷土史・歴史愛好家が多いということです。

例えば、地域の郷土史研究会で個人課題に取り組んでいる人、古河公方が隠居館をなぜ久喜に選んだのかを課題に地形、荘園、構造物などの面から取り組んでいる人、さきたま史蹟の博物館の歴史講座を受講している人、関西在勤時には「古都歌集」として古代のロマンを追いかけていて、埼玉に戻ってからは関東の古墳めぐりと「古代国家の成立」と言う講座を受講している人、地域の歴史講座を受講している人、色々な城址めぐりをしている人などがいます。

卒業後も班活動を継続し、郷土史・歴史なども含め語り合い親睦を深めたいと思います。



菅原班長 田中さん 橋本さん 野村さん 高橋さん  
長澤さん 中島さん 瀬戸川さん

「初体験ばかりでした」

28番 田中 忠

6年前の退職後、勤務した会社のOB会の会報に栗橋の紹介記事を依頼され、「栗橋城」の存在を知った時から地元の歴史をもっと知りたいと思うようになりました。図書館通いが始まり、利根川の流れの大きな変化や町が発展していく過程など、目に入る身近な景色が新鮮に感じられるようになりました。いきがい大学「郷土を知るコース」を知ったのはそんな時でした。広く埼玉県の歴史を知るにはまたとない機会と思いました。

応募に当たっての小論文に戸惑いましたが、入学後はクラスの皆さんや4班の皆さんに親しくお付き合いいただきました。陶芸クラブでは初めての楽しい経験をさせていただきました。中山道ウォークでは知らない土地を歩く機会をいただきました。数度の施設見学は初めての場所ばかりで興味深いものでした。HP委員では全く未熟なパソコンの技術指導を受けさせていただきました。

自分の今後の計画は、テーマを見つけて引き続き地元の歴史を訪ねること、盆栽育成の技術を磨くこと、体力の維持に努めること、地元自治会のHPを作り運営すること、日光道中ウォークの案内役をやること、陶芸の継続と欲張っていますが、1歩ずつと思っています。今後ともどうぞよろしく。

追伸：専科HP充実のため、皆さんの情報提供をお願いします。

●社会見学会＝水澤寺～旧富岡製糸場＝H21. 9. 29



# 郷土の会だより

発行責任者  
岡村昭則

## 専科第一期生修業式行わる！

三月九日、セミナーホール2で専科第一期生の修業式が執り行われました。まずは伊奈学園で最後の校歌斉唱に始まり、次に三十六回の講座日程を休むことなく出席されたみなさんに、いきがい大学学長（代読 伊奈学園氏家所長）から三十六名の方に授与されました。郷土を知るコースからは一番多い十五名の方が授与されました。



H22.3.9 ⇕

## 専科第一期校友会設立！

郷土を知るコースの次期校友会副会長候補の北氏さんが司会を務め、次期校友会会長候補の田中忠さんを議長等に選出し、校友会設立に向けて議事進行をすすめ、校友会会則、活動計画、予算案、役員等の議案説明後、満場一致で承認され専科第一期校友会は設立されました。新任役員紹介を行い総会は終了しました。設立総会に至るまでには、その下準備として第一八期校友会会長田中康勝さんの助言などもいただき、会員の方々が気楽に参加できる校友会作りを、郷土を知るコースが先頭に立って準備に取り組んで来ました。

この一年間、振り返りましても、「郷土を知るコース」は、班編成、全員の写真一覧配布、各班の懇親会、ホームページの充実、全員による学園祭の参加、新年会開催、文集作成、卒業後の「郷土会の結成」等様々な活動を行い、大変有意義な学園生活を送ってきました。これもクラスメートの協力なくしては出来ないことで感謝あるのみです。



★専科第一期校友会会長田中忠さんの挨拶



平成22年3月15日 彩の国いきがい大学卒業記念 伊奈学園専科コース第1期生 於：埼玉会館

●平成22年度校友会HP



ごあいさつ

H22. 5. 3

専科第1期校友会会長 田中 忠

1年間の学園生活を経て、高齢ではあるが同じ釜の飯や弁当を食った仲間として自然と友情ができました。今後の行く先や活動に違いがあっても、親しく楽しく長く自由闊達に交流できることでしょう。

専科1期校友会は、伝統を作るという役目が否応なくあります。学園の皆さんからも注目されていることでしょう。荷が重いと感じますが、みなでその役目を果たしていきます。



平成22年度・伊奈学園専科第一期校友会 役員一覧表

コース別	理事	役職	担当部署	伊奈連役員他
健康づくりコース	鈴木暁子		総務部	
	塙 恒雄	副会長	総務部長	代議員
	平田裕康	会計	総務部	
	星澤恵美子	会計	総務部	
	吉橋佳子		総務部	
郷土を知るコース	相場恒夫		企画部	
	大阿久聖一		広報部長	
	北氏和雄	副会長	企画部長	
	田中 忠	会長		理事
まちづくりコース	松野吉光		広報部	
	伊藤八重治		社会活動部	
	小金澤憲男	副会長	社会活動部長	理事
	瀧澤正高		社会活動部	
	蔦川忠義		社会活動部	
イナ・ヴォイス委員 健康	大友 武		社会活動部	大友・原井
イナ・ヴォイス委員 郷土	吉野利美子		社会活動部	有村・吉野
イナ・ヴォイス委員 まち	玉置貞明		社会活動部	伊藤・玉置
HP委員 健康	伊藤盛夫		広報部	伊藤・桑原・塙
HP委員 郷土	岡村昭則		広報部	天谷・岡村・田中
HP委員 まち	山田宏明		広報部	久保田・高平・山田
グランドゴルフクラブ	小金澤憲男	まち		
卓球クラブ	熊倉 晃	郷土		
朗読クラブ	吉野利美子	郷土		
太極拳クラブ	安藤允浩	郷土		
陶芸クラブ	小林健一郎	郷土		

●第七回 ウォーキングサークル「幸手宿の史跡」めぐりと権現堂の桜狩り (H22. 4. 6)



●田中忠さんドラゴンボード埼玉大会に出場 H22. 5. 2



●第一回交流会「ラフレさいたま」 H22. 8. 26




● 第二回郷土の会・交流会 = H22. 9. 26



彩の国いきがい大学伊奈学園校友会連絡協議会  
**第19回合同研修会**  
**成功裡に終わる (11月26日)**



- 

**午前の部 専科一期集会 三〇七号**

セミナー室

  - 1、会長あいさつ 田中
  - 2、校友会活動報告 小金沢
  - 3、コース別報告 健康↓塙  
郷土↓北氏  
まちづくり↓滝
  - 4、クラブ活動報告 沢
  - 手話ダンス 実演含む 鎮目講
  - 師、 ● 太極拳 、実演含む 吉橋講
  - 陶芸 小林
  - 卓球 熊倉
  - パソコン 野村
  - 俳句まちづくり 石井
  - 郷土の会 松野
  - ウォーキング 天谷
  - その他のクラブ報告
  - 5、委員報告 ホームページ 岡村  
イナヴォイス 玉置
  - 6、二年制進級組報告 無し



# 郷土の会だより

発行責任者  
岡村昭剛

専科第一期校友会郷土の会の皆さま

新年おめでとうございませう。

校友会会長 田中 忠

昨年の校友会活動では、多大なご支援をいただき誠にありがとうございました。

振り返ってみますと、初めての専科校友会活動も手探りの状態でスタートしましたが、第一回交流会やボランティア活動発表会、第十九回合同研修会、専科一期ホームページなど、皆様の協力で充実した思い出深い時を残すことができました。あとは三月三十日予定しています『総会』を残すのみとなります。

専科卒業後の皆さまは、県連協や伊奈連協の行事等の参加をはじめ、クラブ活動やボランティア活動、趣味や旅行にゴルフにと忙しく過ごされ、まさに伊奈学園の目標「元気に社会活動」の実践をされたことでしょう。これからも大いに活動の舞台を広げていただきたいと思えます。

四月からは新たな執行部が発足し、校友会活動が一層充実する事となります。引き続き皆さまのご協力をお願いいたします。

郷土の会では、二月七日に鉄道博物館見学や第三回目の懇親会が予定されていますので大勢の皆様がご参加いただけることを期待しています。

今年も宜しくお願い致します。

新年明けましておめでとうございませう  
ご家族お揃いでよいお年をお迎えのこと  
をお喜び申し上げます。

ホームページ委員 岡村昭剛

昨年は政治・経済共に低迷状態が続き、私達の生活は大変厳しいものがありました。このような状況下で迎えた「卯年」の平成二十三年は、多くの課題をどう克服の挑戦力」で飛び越えて、諦める人が社会の中で大切にされ、普通の生活が送れる世の中であることを願って止みません。さて、この一年を私なりに振り返ってみますと、専科一期郷土コースに入学して、上がったことは郷土の会の皆様と出合い、私の得意とする分野で活動の場を与えて頂いたことと、パソコンを習いだして五日目、初めてホームページ作成に挑戦できたことに尽きます。

これをベースにして、卒業後は「郷土の会」を結成し、体調不良の中でもなんとか、県連協や伊奈連協の行事をはじめ、校友会活動やコース活動に参加しながらそれなりに充実した一年を過ごすことができました。これも一重に「郷土の会」の皆様のご協力の賜物であり、心より感謝しております。「郷土の会」の皆様、今年も健康維持に努め明るく暮らしていきましょう。

今年も昨年同様にお付き合いのほど宜しくお願ひ申し上げますと共に、慶賀中の方には一日も早くご快復されることをお祈り申し上げます。



● 第三回郷土の会・交流会 = H23.2.7



● 東日本大震災が発生し甚大な被害を出す

2011年（平成23年）3月11日に発生した東北地方太平洋沖地震による災害およびこれに伴う福島第一原子力発電所事故による災害である<sup>[1]</sup>。大規模な地震災害であることから大震災と呼称される。東日本各地での大きな揺れや<sup>[2]</sup>、大津波、火災等により、12都道県で2万2000人余の死者（震災関連死を含む）・行方不明者が発生し、これは明治以降の日本の地震被害としては関東大震災、明治三陸地震に次ぐ規模となった。沿岸部の街を津波が破壊し尽くす様子や、福島第一原子力発電所におけるメルトダウン発生は、地球規模で大きな衝撃を与えた。



●専科一期校友会として田中会長の下で東日本大震災支援に取り組む。

校友会だより第1号

彩の国いきがい大学伊奈学園

## 平成22年度専科一期校友会総会

(H23. 3. 30)

3月11日の巨大地震に起因する津波被害、福島原発事故と国家的危機のさなか、さらに東電の計画停電実施されている中での定期総会開催については、会長はじめとする役員の方々が随分悩み苦しみましたが、計画停電から外れていることもあって、予定通り、3月30日（水）埼玉県民活動総合センターで開催しました。当日は88名の方々の出席者いただきました。

★まずは北氏副会長の司会で総会がはじまり、続いて田中校友会会長の挨拶及び東北関東大震災で亡くなられた方々に対する黙祷を捧げると共に、被災者への義援金の呼びかけを行いました。議題に入る前に、「専科の生みの親であり、この三月末日で退職される伊奈学園氏家所長」のご挨拶をいただきました。氏家所長の発案があって専科コースで大勢の仲間に出会えて今日があることに感謝申し上げます。

★議事に入り、田中校友会会長が22年度活動報告、平田会計が22年度決算報告、若林監事が監査報告、小金澤副会長が23年度役員選出（案）を行い、それぞれ承認されました。続いて23年度理事の紹介が行われました。

★新しく就任した玉置校友会会長の下で23年度活動計画（案）、23年度予算（案）が提案され、それぞれ承認されて全ての議事は終了しました。最後に新任の伊藤副会長の新年度に向けての力強い挨拶で総会を締めくくりました。

★総会終了後は、出席者全員で昼食会を催し、久しぶりに会った仲間との旧交を温めました。その間に田中前会長が東北関東大震災被災者への募金をお願いして回りました。その結果、大勢の皆さんのご協力により、何と51,832円の義援金が集まりました。これに23年度予算から支出する一人当たり2000円のカンパ114名分を加えると7万円を超えます。津波被害、原発事故で避難を余儀なくされた方々へ専科一期校友会会員の気持ちがい少しでもお役に立てればと思っています。昼食後はコースごとに分かれて話し合いが持たれ、次回の再会を約束し午後1時過ぎに解散しました。



●一期主催第1回専科合同ウォーキング「久喜市史跡めぐり」=H23. 5. 7



参加された専科校友会の皆さんです

●郷土コース活動=国会議事堂～憲政記念館～旧岩崎邸=H23. 6. 4



●日帰りバス旅行＝松代町史跡めぐり＝H23. 10. 31



●一期主催第2回専科合同ウォーキング＝筑波山紅葉狩り＝H23. 11. 14



●専科一期校友会第二回交流＝大宮東天紅＝H24. 1. 25

1月25日、専科一期校友会は交流事業の一つとして「新春の懇親会」を大宮・東天紅で開催しました。昨年7月25日に第二回交流会を予定していましたが、台風のため延期となってしまったので代替として開催したものです。今日の天気は素晴らしく東天紅の会場からは奥武蔵の山々、神通川流域の山々、榛名、赤城の山々等、眼下には大宮の街並みが望め、懇親会に花を添えてくれた最高のロケーションです。会場入口の受付は、クラスメートと久しぶりに声を掛け合う光景が数多見られました。全体で60名の方に参加していただきました。まずは、小山としさんの司会で懇親会の幕を開き、次いで玉置校友会会長から、昨年の校友会活動や東日本大震災等についての報告がありました。伊藤副会長の音頭で「これからの校友会活動の発展を祈念して」乾杯し、食事会となりました。料理はバイキングでしたが、料金が安かったことも影響して量も少なくあっという間に品切れと

なってしまい、料理の不足を歌で満して下さいという会長が挨拶を実践すべく、各コースとも2曲選定して壇上に上がって合唱し絆を深めました。最後のお楽しみはビンゴゲームです。それが終わってから田中前会長から専科校友会グラウンドゴルフ部創設大会参加者が13名になったとの報告がありました。それでも間が



持てなくて切り上げ時間を早めにして、最後に小金澤さんの一本締めで交流会を閉めていただきました。ご参加された皆さんに感謝申し上げます。有難うございました。



●平成23年度専科一期校友会総会＝H24. 3. 30

司 会 有村 弘	
1. 議事	
①第1号議案 平成23年度活動報告	会 長 玉置 貞明
②第2号議案 平成23年度決算・決算報告	理 事 熊倉 晃
	監 査 小金澤憲男
③第3号議案 会則の改定	会 長 玉置 貞明
④第4号議案 平成24年度新役員選出(案)	副会長有村 弘
⑤新理事の紹介	新会長
⑥第5号議案 平成24年度活動方針(案)	新会長
⑥第6号議案 平成24年度予算計画(案)	新会長
閉会のことば	副会長伊藤 盛夫

↑  
↑  
↑  
↑  
↑  
↑  
↑  
↑



郷土コースの皆さん

●郷土の会例会 鴻巣市役所及び周辺史跡めぐり =H24. 5. 20

## ▲楽しかった！郷土の会例会

(H24. 5. 20)

- ★鼻を突く花壇の百合の香りけり
- ★クーラー利く館の中の埴輪見る
- ★ガイドいて昔を語る夏館
- ★薫風や緑の中の勝願寺
- ★寂びれたる城主の墓や木下閣
- ★脱皮して筍育つ高さかな
- ★バラの咲く手入れされたる古刹かな
- ★太鼓打ち願掛聞こゆ春の社
- ★店先で狭山新茶を進めらる
- ★五月来る宴楽しきクラス会



クラア館



生田家遺跡の埴輪 (重要文化財)



鴻巣市役所

# ▲楽しかった！郷土の会例会

(皇居・警視庁見学＝H24. 9. 25)



警視庁見学記念



●専科合同グラウンドゴルフクラブ創設一周年記念大会＝H25.2.1

専科校友会  
合同グラウンドゴルフクラブ創設一周年記念大会

専科一期、二期の仲間が立ち上げた合同グラウンドゴルフクラブも創設してから一年が経ちます。2月1日（金）、県民活動センターのグラウンドで一周年記念大会を開催したところ、19名（女性4名、男性15名）の方々に参加されました。当日は風もなく小春日和と好天に恵まれた中で19名が元気にプレイを楽しみました。グラウンドの整備が悪くどんなスコアが出るのか心配していましたが、いざプレイを始めてみれば、皆さんの実力はグラウンドコンディションもなんのそので、19名中13名の方がホールインワンを連発し、一周年記念大会を盛り上げてくれました。特に専科一期健康づくりコース川口さんのホールインワン3回には脱帽です。また、1組の全員がホールインワンを出したことは大変な驚きでした。

★成績順位 優勝 川口さん（一期）、二位 井上さん（二期）、三位 相澤さん（二期）、四位 和久井さん（二期）＝相澤さんと同点でしたが年齢下の順位です。五位 大阿久さん（一期）、プービー賞 玉置さん（一期）

★ホールインワン賞 1組 和久井さん（二期）、相澤さん（二期）、井上さん（二期）  
伊藤さん（一期）、有村さん（一期）  
2組 大島さん（一期）、仲田さん（二期）、磯さん（二期）  
3組 大阿久さん（一期）、玉置さん（一期）、春山さん（二期）  
4組 川口さん（一期）、久保田さん（一期）



参加された皆さんです

●郷土の会 2月例会＝県立歴史と民俗の博物館＝H25. 2. 6

## 郷土の会 2月例会

昨年も湯島のひな祭り見学を計画したら雪で延期になったことがあった。今回も例会の日は雪との予報で、例会担当幹事は悩んだが25年度校友会役員も決めなければならない事情もあり、雪が降ろうが予定どおり実施することを全員にメールした。

★雪降る中、大宮公園内の県立歴史と民俗の博物館に10時に集合した21名は、昼食会場へ出発するまでの1時間15分をそれぞれ思い思いに博物館を見学していただいた。この



見学会も郷土を知るコース卒業生には相応しいもので、みなさん、常設展示の「埼玉における人々のくらしと文化」と、企画展「埼玉歴史街道1「新編武蔵風土記稿の世界」を真剣な眼差しで見学されていた。個人的には歴史が好きなので博物館によく来ている。ここに来る度に昔の人たちの歴史に触れると、幾多の時間を経て今の自分たちへ繋がっていることを実感させられるとともに、心安らぐ時間でもある。

★見学を終え、博物館内で参加者全員の集合写真を撮って次の大宮氷川神社へ向かう。



雪降る中を歩くのも風情がある。遥か昔に見たロマンチックな映画のシーンが蘇ってくるが、もう高齢者になってはすべてがセピア色に色褪せている。氷川神社ではそれぞれが祈願する。おみくじを買って開いたら「平」と書かれているとの仲間がいたが、人間それが一番の生き方だと思う。それにしても「おみくじ」は我々を一喜一憂させ楽しませてくれる。

★今日のメイン会場は大宮駅東口の「ガツテン寿司」である。久しぶりに郷土の会の懇親会とあってお話で盛り上がった。その中に25年度校友会役員を決めなければならないこともあって、会話が途切れることもあったが、久しぶりに真剣な話なので、色々な意見が出る中で校友会に関係なく郷土の会は続けたいという、皆さんの思いを知ることが出来てよかったことは言うまでもない。役員の話はみなさん遠慮がちでまとまらなかったのも、田中さんが

●平成24年度校友会総会=H25. 4. 19

1、開会のことば	司 会 小林 正子
2、会長挨拶	理 事 高田 忠良
3、議長選出	会 長 角田 進
4、書紀 議事録署名人の選出	
5、報告事項	
①平成25年度活動報告	会 長 角田 進
②クラブの活動報告	クラブ 代表者
6、決議事項	
第1号議案 平成24年度決算(案)承認の件	理 事 野良 テル
	監 事 玉置 貞明
第2号議案 会則改訂の件	会 長 角田 進
第3号議案 平成25年度役員選任の件	会 長 角田 進
<新理事の紹介>	新会長 田中 忠
第4号議案 平成25年度活動計画(案)承認の件	新会長 田中 忠
第5号議案 平成25年度予算(案)承認の件	新会長 田中 忠
7、閉会のことば	(24年度) 副会長 宮島昭夫



平成25年度専科一期校友会会長 田中忠さん就任





# 校友会だより

平成25年度 第1号  
発行者 田中 忠  
会員総数 88名

専科一期校友会  
会長 田中 忠



## ごあいさつ

25年度の校友会会長を務めることになりました田中でございます。専科コースは各期とも卒業後、半数以上の方が二年制に進学されることから、校友会運営に様々な問題を抱えております。

専科一期卒業生の皆様には、ほとんどの方が会員として残っていただき、校友会活動にご協力をいただいていることに心より感謝申し上げます。

これまでの3年間で校友会の年間活動も一定のルーチン化が図られ、各コース活動、クラブ活動、ホームページ活動等が活発に実施され、会員の親睦が図られていることや、伊奈学園建学の精神である地域ボランティア活動の参加へ、半話ダンスクラブや太極拳クラブが実践に移りとおおいに発展しています。

また、専科一期校友会は、専科各期校友会に呼びかけて音楽会・学習会の合同事業を展開させ、グラウンドゴルフやハイキング等合同クラブを結成し活動しています。加えてホームページも専科校友会トップページをオープンさせて、県連協・伊奈連協・専科合同等の各期共通事業案内を行い、各期ホームページ取材の省略化を図ってきました。

このように専科一期校友会活動が活発なのも過去3年間にわたる、理事各位及び関係者の努力と、会員の皆様のご理解とご支援によるものであり、心より感謝申し上げます。

さて、25年度の校友会運営につきましては、新たな事業を盛り込んだ計画に基づき実施しますので、積極的なご参加をお願いします。また、伊奈連協への意向調査も実施したいと考えています。新しく就任された役員一同、これからも校友会のモットーである「気軽に楽しくおらかな校友会」を目指して活動していきますので、変わらぬご支援とご協力のほどお願い申し上げます。就任の挨拶とさせていただきます。



## =CONTENTS=

会長挨拶	P 1
各部からの方針	P 2
各コースの計画	P 3
役員分担表	P 4
年間行事一覧表	P 5
クラブ活動一覧表	P 6
クラブ活動報告	P 7
コース活動報告	P 16
みんなのひろば	P 18



●日帰りバス旅行＝小諸懐古園外＝H25. 10. 29



●第一回専科合同グラウンドゴルフ大会(H25.11.1)

大会会長 専科1期校友会会長 田中忠

実行委員長 小金澤グラウンドゴルフ部長専科1期校友会

競技委員長 落合競技委員長専科第2期校友会



●伊奈連協退会のための臨時総会＝H25. 11. 15＝

日 時 平成25年11月15日(金) 午前10時～

場 所 県民活動総合センター第3会議室

出席者 校友会会員 35名 (会員総数87名)

議 題 ①第1号議案 今後の校友会活動提案

②第2号議案 組織改革に向けた提案

・会則改訂提案

・細則改訂提案



★定刻により、副会長の石田忠彦さんから開会が宣言され、続いて議長選任の件を会則により会長の田中忠さんを議長に選任した。議長は事務局に会員総数、本日の出席会員数の報告を求め、本会の宣言を行った。引き続き、書記に吉野利美子さん、中原愛子さんを選任、議事録署名人に角田進さんと小金澤憲男さんを総会の承認を得て選任した。

★議決事項

①第1号議案 今後の校友会活動提案について、田中会長より「卒業後3年経過の校友会活動をふり返り、伊奈連協退会への提案と校友会活動のスリム化を総会に諮る。」との説明がなされた。

②第2号議案 組織改革に向けた提案について、北氏副会長より「・本会会則の改訂について、議案書に基づき、主な改定点は、本会の活動から連協との関係を削除、理事は各コース前年度末の会員数により選出と、会費は年額1,500円とすることを、議長はこれを総会に諮る。」と説明がなされた。次に「・本会細則の改訂について、議案書に基づき、主な改定点は連協との関係を削除とイナ・ヴォイス活動はボランティア活動と全般的な表示にすることを総会に諮る。」との説明がなされた。



2案件について提案説明が終わったので、議長が1号議案、2号議案、併せての採決を諮り、異議なく原案どおり承認可決された。

★以上をもって本臨時総会の議事はすべて終了し、田中会長は議長を退任。副会長の原井氏から閉会が宣言された。

※総会終了後は各コース別にお話の会が開かれました。昼食後、伊奈連協の合同研修会に参加して「夢のコンサート・マリンパー調べ」を楽しみました。



# 校友会だより

平成25年度 第2号  
発行者 田中 忠  
会員総数 87名

専科一期校友会  
会長 田中 忠



## 新年ご挨拶

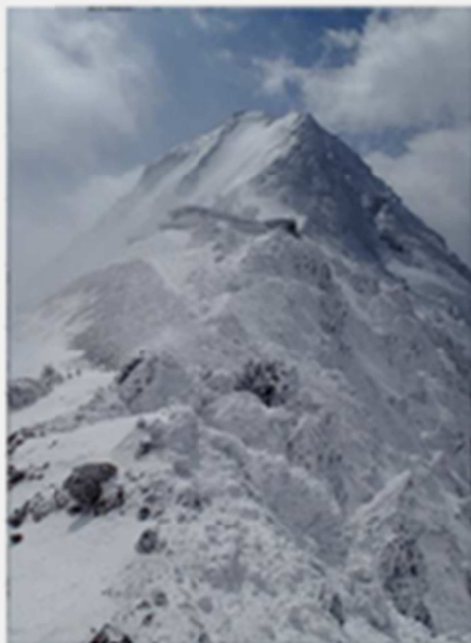
明けましておめでとうございます。会員の皆様には、穏やかな新春をお迎えのこととお慶び申し上げます。

この一年、校友会の運営に関しまして会員のみなさまには多大なご支援ご協力を賜り、心より感謝申し上げます。振り返りますと、専科コースは年々会員の減少が著しくなることから、校友会活動の停滞も考え、組織防衛のために、皆様のご協力により伊奈連協の退会を決めさせていただきました。校友会行事の「暑気払いと日帰りバス旅行」も多くの会員の参加をいただき無事に終わることができました。

これまで実施してきた合同の学習会や音楽会は、専科二・三期の伊奈連協退会を契機に取組も参加者実費徴収型事業に変わりましたが、今年度は専科一期主催で学習会を開く予定です。昨年11月、初めて専科校友会合同グラウンドゴルフ大会を実施し、一期から四期まで合わせ29名の参加をいただき成功裏に終わりました。

今後も引き続き、本会の活動が充実したものになりますよう、役員一同努めてまいりますのでご支援ご協力をお願い申し上げます。

今年が皆様にとってさらに良き年となりますよう祈念申し上げます。新年のご挨拶とさせていただきます。



### =CONTENTS=

会長挨拶	P 1
年間行実施状況	P 2
校友会行事報告	P 3
各コース活動報告	P 11
クラブ活動報告	P 14
みんなのひろば	P 20
編集後記	P 20



影の国いさがい

●平成25年度専科一期校友会総会＝H26. 4. 18

1. 開会のことば
2. 会長挨拶
3. 議長選出
4. 書紀  
議事録署名人の選出
5. 議事
  - ①第1号議案 平成25年度活動報告
  - ②第2号議案 平成25年度決算報告
  - ③第3号議案 平成25年度監査報告
  - ④第4号議案 平成26年度新役員選任（案）
  - ⑤第5号議案 平成26年度活動方針（案）
  - ⑥第6号議案 平成26年度予算計画（案）
6. 議長解任
7. 新会長就任挨拶
8. 閉会のことば

司会 中村 正武  
理事 北氏 和雄  
会長 田中 忠

企画部長 山田 宏明  
会計主管 山崎高三郎  
監事 角田 進  
新会長  
新副会長  
新会計

副会長 原井 克之





●専科一期主催第2回合同ウォーキング＝太平山散策と葡萄狩り＝H26. 9. 29

9月29日専科校友会合同ハイキング部主催のハイキングが開かれました。専科合同ハイキングは1期6名、2期7名の13名が参加しました。当日は快晴の秋晴れで絶好のハイキング日和となりました。低い山(345m)にも関わらず、急な上り坂あり、下り坂ありと変化に富んだコースでした。関東平野で最初に立ち上がっている山地ですから、謙信平からは条件が揃えば富士山から東京スカイツリーまで見通せる眺めの良さです。ルートは客人神社⇒謙信平⇒太平山神社⇒大中寺⇒清水寺そしてぶどう団地の「はごろも園」でお土産の葡萄狩りを楽しみました。帰路のJR大平下駅には発車1分前に到着というタイミングの良さでした。『ハイキングは晴天に限る』が皆さんの声でした。(田中)大平神社で記念撮影



ブドウ狩り  
←神社から栃木市内の眺め

●第5回定期総会＝H27. 4. 24＝

司会 大島 修

1. 開会のことば
2. 会長挨拶会長 葛川忠義
3. 議長選出
4. 書紀  
議事録署名人の選出

理事 小金澤憲男

5. 議事
  - ①第1号議案 平成26年度活動報告
  - ②第2号議案 平成26年度決算報告
  - ③第3号議案 平成26年度監査報告
  - ⑤第4号議案 平成27年度新役員選任(案)
  - ⑥第5号議案 平成27年度活動方針(案)
  - ⑦第6号議案 平成27年度予算計画(案)

企画部長 塙 恒雄  
会計主管 浅見法子  
監 事 石田孝彦  
新 会 長  
新 副 会 長  
新 会 計

6. 議長解任
7. 新会長就任挨拶
8. 閉会のことば

副会長 岡村昭則





## 学童の縁故疎開

郷土コース 田中 忠

大東亜戦争時、私の実家は東十条にありました。京浜東北線で埼玉県に一番近い「赤羽」のひと駅内側です。父の実家は「茨城県千代川村別所」ですぐ脇には鬼怒川が流れていました。父が居た頃はこの川で遡上する鮭を捕まえていたそうです。

戦争が激しくなり、学童の縁故疎開が始ったのは昭和19年。私の兄は12年1月生まれの小学2年生、次兄は14年生まれの5歳、私は1歳未満でした。両親は空襲になれば3人の子供を避難させられないと、驚いたことに全員を父の実家に疎開させました。小学校の校長だった祖父はまだ健在で、いつも長火鉢の前に座りキセルでタバコを吹かしていたそうです。体の大きかった兄はいじめられることもなく、元気に小学校に通いました。私は乳飲み子、近所の農家からヤギの乳をもらって飲んだおかげで育つことができました。記憶には全くありませんが、田舎のヤギのお蔭と感謝の気持ちです。

疎開の期間は約3年。帰京すると妹が生まれていたり、母の父親一家が深川で戦災に遭って焼け出され、東十条で一緒に暮らすようにと大きな変化がありました。私の記憶はこの辺からで、祖父母、叔母を含め総勢10人のとても賑やかな家族でした。祖父は「正月の雑煮に」と庭で飼っている鶏を絞めたり、祖母からは火鉢で焼いたにんにくを無理やり食べさせられていました。優しい叔母はそっとお小遣いをくれました。

私には戦争体験そのものはありませんが、国民全体が大変な苦勞を強いられたことは、戦後の体験からも窺うことができました。時あたかも安保法制議論の真っ只中、じっくり考えたいと思っています。

●平成27年度専科一期校友会総会=H28.4.28

1. 開会のことば

2. 会長挨拶

3. 議長選出

4. 書紀

議事録署名人の選出

5. 議事

①第1号議案 平成27年度活動報告

②第2号議案 平成27年度決算報告

③第3号議案 平成27年度監査報告

④第4号議案 会則の改定(案)

・会則見直しの件

・「専科一期の会」運営方針(案)

⑤第5号議案 平成28年度新役員選任(案)

⑥第6号議案 平成28年度活動方針(案)

⑦第7号議案 平成28年度予算計画(案)

6. 議長解任

7. 新会長就任挨拶

8. 閉会のことば

司 会 埴 恒雄

理 事 星澤恵美子

会 長 伊藤 盛夫

企画部長 大森 勇

会計主管 新井 真弓

監 事 蔦川 忠義

副会長 大森 勇

新 会 長

新 副 会 長

新 会 計

理 事 星澤恵美子



## 専科一期郷土の会集い

(H28. 7. 31)

郷土コース卒業生は、郷土の歴史を勉強したくて入学し、卒業した会員は多い。中でも田中さんや野村さんは地元の歴史や文化についての造詣が深く、これまでも郷土の会の皆さんを何回かご案内してくれた。今回も野村さんから鷲宮神社の夏越祭りに行われる、「土師一流催馬楽神楽」を見学しませんかと案内をいただいた。ついでに昼食を兼ねて懇談会もということで、近代的な東武線鷲宮駅に集合したのは18人の仲間である。梅雨明けの猛暑にも等しい炎天下、昼食会の会場へと街に出ると、街は政府が地方再生と政策に掲げている、現実のシャッター通りに等しい寂れた商店街通りである。ここで商売してもご飯を食べるだけの売上げのあるお店は、我々が昼食会の会場である料理店以外あまりないのではと思うほどである。



●さて、久しぶりのことで食事に来るまでの時間に、野村さん、安藤さん、田中さんの挨拶やお話が終わってから、それぞれの交流が始まった。一年間だけ机を共にした仲間であるが、卒業して7年が経とうとしているのに、会話は学生時代の時と同じように弾む。変わったのはお互いに年を取ったなあという実感であると共に、田中さんや私にしても連れ合いを介護していることから、このような活動に参加するにしても7年前のようにはいなくなってしまうことである。美味しい昼食をいただき、最後に記念写真を撮ってから、本日のメインテーマである鷲宮神社で奉演される「土師一流催馬楽神楽」を見に行く。私も鷲宮神社を訪れるのは初めてである。社伝によれば、神代の昔、天穂日命が東国を経営するために武蔵国に到着し、天穂日命のお供の出雲族27人の部族と地元の部族が当地の鎮守として大己貴命を祀ったのに始まると伝えられているように歴史ある神社である。

●夏越祭りに鷲宮神社で奉演される「鷲宮催馬楽神楽」(正式名称:土師一流催馬楽神楽)の始行年代は明らかではないが、鎌倉時代の史書である『吾妻鑑』に、建長3年(1251年)4月に鷲宮神社で神楽が行われたことが書かれているというから歴史があることは間違いない。昭和20年代に入ると、町内の若者十数人が集まって「鷲宮神社神楽復興会」が組織され、伝承者の指導により神楽が伝承され、消滅の危機を何とか乗り越えたという。

# ▲栗橋郷土史研究会田中忠さんの発表会

(H28.9.4)

彩の国いきがい大学伊奈学園専科一期卒業生で栗橋郷土史研究会会長の田中忠さんが全国で16位ある静御前伝説の中の一つ、栗橋に伝わる静御前伝説についてパワーポイントを使いながら90名の皆さんの前で1時間にわたり研究発表を行いました。郷土史を地元で研究し、地元の方の前で発表することは、発表するほうも聞く方もお互いに郷土の歴史を学ぶことで郷土愛へ繋がっていく一ことであり、大変素晴らしいことです。本時の発表会について7/31に私達専科1期郷土の会が開かれた折に、田中さんにPRしていただきましたこともあって、今日は郷土の会の方が10名と21期生の方の参加をいただきました。私もカメラを持参した物の壊れて使えないアクシデントがありました。次のようなことを田中さんか発表されましたので紹介します。

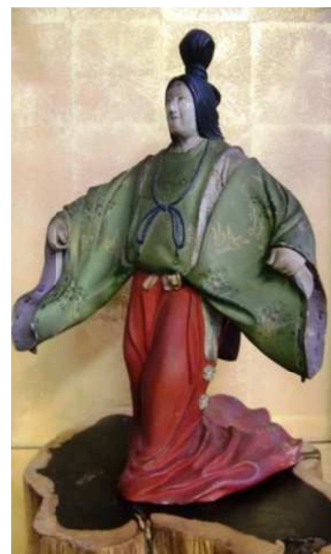
## 栗橋郷土史研究会

# 栗橋の静御前伝説

### 1. 源義経

平安時代末期、朝廷は法皇、天皇、摂関家、近臣の対立による政争を繰り返していました。保元の乱(1156)、平治の乱(1160)により源氏が滅び平家一門の力が大きくなり、武士で初めて公卿の地位に就きました。20年後、源頼朝は平家打倒の旗を掲げ武家政権樹立に成功しました。

源義経は1159年生まれ、源義朝の九男、母は常盤御前、幼名は牛若丸。頼朝は12歳年上の異母兄。1180年頼朝が伊豆で挙兵すると秀衡家来80騎と駆けつけます。義経の活躍は目覚ましく、1184年1月兄範頼とともに宇治川の合戦に勝利、壇ノ浦の合戦ではついに平家一門を滅亡させました。都に凱旋した義経の名声は一気に上がり、一方では身勝手な振る舞いで鎌倉からは不信感を抱かれ、ついには頼朝から追討を受け京から逃れなければならなくなっていました。



### 2. 静との出会い

静御前は1168年讃岐の生まれ、母の磯禪師は白拍子。『徒然草』には信西入道が彼女に舞を教えたのが白拍子の始まりであると記されています。静6歳の時に父に死別、のち京に出て母とともに白拍子としての名を高めました。1182年7月都では3年年続いた日照りにより人々は苦しんでいました。後白河法皇により雨乞いの神事を催しました。神泉苑の池で100人の僧に読経させたが効験がなかったため、100人の容顔美しい白拍子に舞わせ雨を祈らせました。99人まで効験がなかったが、静が舞うとたちまち黒雲が現れ、3日間雨が降り続けました。静は法皇から「日本一」の宣旨を賜りました。また法皇は、静を見て「かの者は神の子か?」と感嘆し褒美として錦の御衣(おんぞ)を与えました。

一の谷の合戦から京に凱旋した義経は、朝廷から任官を受けるなど一躍武将としての地位を築きました。この頃静を見初めた義経が召して側室にしたのは静18歳、義経27歳でした。翌年には平家追討の戦を終焉させ静との幸せな日々を送れるはずでしたが、大きく歯車が傾きてきました。

### 3. 静御前の悲劇

京を追われた義経一行は、紀州吉野山に向かうこととしました。険しい雪の山道をたどり、目指す吉野の峰は修験道場として禁制、ここで静と義経は別れなければなりま

せんでした。静は吉野の・中をさまよう中、悪僧に捕えられ京に送られました。そして磯禪師とともに監禁、義経の・方を問い詰められました。そして鎌倉からは「直ちに静かを護送せよ」との命令が来ました。・とともに鎌倉に送られ、厳しい取り調べを受けることになりましたが「吉野・で別れた後のことは知らぬ」と同じ返事を繰り返すのみでした。やがて頼朝の妻政・の所望で、鶴岡 幡宮で静が舞を披露することとなりました。多くの・々が門前にひし

めく中、静はこのとき「吉野・峰の・雪 踏み分けて・りにし・の 跡ぞ恋しき」「しづやしづ 賤のをだまき くりかえし 昔を今に なすよしもがな」と義経を慕って歌ったのが頼朝の怒りに触れました。しかし、妻の政・は「敵ながらあっぱれ」と、とりなしました。このころに静が義経の・を宿していることが発覚しました。

「女兒ならば助けよ、男児ならば殺せ」が鎌倉の既定方針です。ついに静は男児を出産、無理やり・は引き離され由・の浜で僅かの間を命を終えたのでした。こののち静親 は京に返されました。

鎌倉での屈辱と悲しみに満ちた・々を終えた静は、・とともに京で静かに暮らしていましたが、侍・に義経の消息を探らせていました。そんな折、義経が奥州平泉にたどり着いたという報が・つてきました。静はすぐさま侍・と童僕を伴って平泉に向けて旅・ちました。吉野の・奥で別れた・から、すでに3年の・が流れていました。しかし、下総国に入り下辺・(総和町)を通った時、奥州からの旅・から平泉の館で義経がなくなったことを知らされました。泣き崩れる静を侍・が慰め、かろうじて伊坂の・まで引き返しましたが、愛する・を亡くした虚しさに静は身も心も弱り果てていきました。

もはや臨終は近いと悟った静は落飾し、義経を弔う日々を送っていました。そして文治5年(1189)、8月16日「判官さま」とただ・を残して、侍女らに看取られながら義経のもとに旅・ちました。わずか22年の短い生涯でした。侍女・琴柱は従者を励まし、里人に語らいて静の遺骸をこの里の高柳寺の寺領内に葬り一本の杉を植えて墓のしるしとしました。



この大杉は、時代を下り弘化三年(1845)の利根川洪水により枯失、あとに墳の場所は鎌倉街道が通り、古墳のように築き上げてありました。高柳寺は利根川開削後に古河中田に移り、寺の名も光了寺となりました。また、寺には静御前にまつわる宝物が現在まで伝わっています。時代は下り江・後期、利根川はたびたびの洪水により地境が不明なり、時の関東郡代・中川飛驒守忠英は現地を視察、そのとき光了寺で住職から「杉の大木は静御前の墓のしるし」と説明を受けました。またゆかりの品々をみて感銘、箱書きしました。そして享和3年(1803)、中川飛驒守は「静女之墳」を建立しました。この大樹のもとで近在の多数の僧侶によって、盛大な法要が営まれました。里人の心の中に、神泉苑で、また鎌倉八幡宮で舞う静の姿を思い浮かべるのでした。

#### 4. 静女之墳

明治18年、鉄道が敷設され上野から宇都宮まで開通しました。そして栗橋駅が建設されました。当初は人や貨物は利根川を船で渡り、対岸の中田でまた列車に乗り宇都宮まで行くという貨物専用駅でした。静の墓は駅の東端に接し車中から「静女之墳」が望める場所でした。まもなく荷物が増えるにしたがって人、車両の出入りが多くなり墓はおおいに邪魔となり、「静女之墳」は移設を余儀なくされ現在の場所である最勝王院経蔵寺境内に移設されました。そこが現在の『静・之墳』です。墳の傍らにあった杉の・木は弘化三年(1845)

の洪水の時に根元が洗われて枯失しています。その後には銀杏の木が植えられました。この銀杏の木は現在地に移されています。栗橋宿の名家、池田本陣の当主は枯れた杉の古木に静の舞姿を残したいと思い、当時人気の菊池容斎（画家）に相談し、随一の彫刻師にこれを依頼、色絵付けを容斎の手により完成しました。この木彫は池田家に保存されていましたが、いつしか所在不明となりました。しかし現在は地元の篤志家の手に戻り保管されています。また、枯失した古木の下からは天然の玉石で重量およそ・貫目のものが大量に出てきました。埋葬の時に積み重ねられたものでした。江戸時代の浮世絵にも小塚の上に大きい玉石が描かれています。昭和25年、栗橋駅は利根川堤防の嵩上げ・事の影響で、南に150m移転、『静女之墳』の目の前となりました。墳と駅の不思議な縁です。大正12年に静村有志による「静・古蹟保存会」が発行、毎年9月15日に静御前祭りが・われています。『静・の墳』を参詣する人々は舞踊家が多く、劇聖と・われた9代目市川団・郎は静御前の蛙蟆龍の御衣を・陣に注・、歌舞伎の舞台を務めました。また、・五・鈴は静御前の舞台の前に花を



届ける代理参詣し、国・劇場に保存会の役員4名を招待しました。花柳流・門、若柳流・門や浅草芸伎連など交代で再三参詣しています。

また墓所のほか栗橋地区には『静桜』がたくさん植えられています。宇都宮の伝説では静御前は宇都宮の野沢まで来たとあります。そのとき平泉から京都に・く・商・から義経の死を聞き、静はすっかり消沈しもう北へ進むことができなくなった。やむなく義経の死を弔うため野辺に・さな塚を作り手に持つ杖を標に・てた。いつしかその杖から芽が出て花を咲かせるようになった。・重と・重の混じった珍しい桜で野

沢ではいつしか『静桜』と呼ぶようになった。と伝わっています。

### 5. 侍女・琴柱（一言明神）

現在「静女之墳」のすぐ裏側に一言明神があります。義経の後を追ってなくなった静の供をしていた侍女琴柱が、静御前の妄念を鎮めるため、祠を建て一言明神として祀ったものです。この一言明神が地元では、「宝治・の雨乞い」神事として行われていました。周辺に田畑がなくなってきた昭和30年頃まで行われ雨乞いすれば必ず7日以内に慈雨があるといわれていました。

また、琴柱は静を弔ったのち、京に戻り静の御持仏（地藏菩薩）を背負い伊坂の草庵に帰り、この仏を

静菩提の信仰として一生を弔いました。琴柱没後、この地藏菩薩は最勝王院の本尊として経蔵に祀られました。建長い5年6月、大地震により経蔵のみ残して境内の堂宇、伽藍はことごとく地中に没してしまいました。現在ではこの地藏菩薩は代替わりして愛宕・経蔵院の本尊となっています。



以前の墓の場所の現状



●平成28年度専科一期校友会総会＝H29. 3. 31＝

- |                       |                 |
|-----------------------|-----------------|
| 1、開会の挨拶               | 副会長 玉置 貞明       |
| 2、会長挨拶                | 会 長 安藤 允浩       |
| 3、議長                  | 会 長 安藤 允浩       |
| 4、書紀                  | 広報担当岡村 昭則       |
| 5、                    |                 |
| ①第1号議案 平成28年度活動報告     | 副会長 玉置 貞明       |
| ②第2号議案 平成28年度決算報告     | 会 計 高田 忠良       |
| ③第3号議案 平成28年度監査報告     | 会計監事伊藤 盛夫       |
| ④第4号議案 平成29年度新役員選任（案） | 副会長 玉置 貞明       |
| 安藤会長の退任あいさつ           |                 |
| 議長交代（久保田新会長）          |                 |
| ⑤第5号議案 平成29年度活動方針（案）  | 新会長             |
| ⑥第6号議案 平成28年度予算計画（案）  | 新会計             |
| ⑦第7号議案「専科一期の会踏み跡集」    | 発刊について広報担当岡村 昭則 |
| 6、議長解任                |                 |
| 7、新会長就任挨拶             |                 |
| 8、閉会のことば              | 副会長 玉置 貞明       |



## 神道無念流戸賀崎氏練武場遺跡と恵文館道場訪問

(H29. 9. 5)

郷土を知るコースの皆さんは伊奈学園卒業後も郷土の歴史や文化を学ぶ人も多く、特に野村さんや田中さんは、郷土に伝わる文化遺産等を会員に紹介し案内してくれます。そのことで郷土の会がまとまっている部分もあることは否めません。今年も昨年につき、野村さんに地元「久喜市にある神道無念流戸賀崎氏練武場遺跡と恵文館道場」を案内していただきました。今回は特に個人の所有する文化遺産を見せていただくにあたっては、神道無念流戸賀崎家現当主戸賀崎正道さんとの折衝でご苦労があったことをお聞きしています。

●さて、道場の館主戸賀崎熊太郎正道さんの「神道無念流と戸賀崎家五代にいて」のお話を要約で紹介します。

★**神道無念流**は、日本の剣術の流派。神道無念流は、下野（栃木県）の福井兵右衛門嘉平がその流祖で、明和元（1764）年、戸賀崎熊太芳（知道軒）が嘉平より免許皆伝を許され、戸賀崎家が宗家となり、安永7（1778）年裏二番町に道場を開くと、門弟3,000人をするほど栄えたとか。特に中でも岡田十松（生市）、大川平兵衛（坂戸市）、斉藤弥九郎（山県氷見市）など名剣士の出現により、天その名を広めたといひます。しかし、そのには**行元寺の仇討ち**天明3年（1783年）



富吉という農民出身の男が、神楽坂、牛込肴町の行元寺の境内で父の仇を討ち取ったという記録があり、下総に住む父、庄蔵は同じ村の百姓組頭の男と口論になり暴行を受け亡くなった。息子は父の仇討ちを決意し、江戸に出て神道無念流の道場で、5年間、一心に励み、養子になって神楽坂で仇敵を見つけ行元寺境内に敵を追いつめ本懐を遂げる。農民出身ではあるが取り調べの結果、仇討ちが認められ、旗本家に召し抱えられた息子は、百石取りの侍になった。農民が農民を討ったという稀なケースで、この事件は実録本が出版されるほど人々の関心を集め、神道無念流の道場はこれをきっかけに大評判となり門人3000人！を集めるほどになったという。

★**神道無念流は**、創始から武道の流派として受け継がれ、水戸藩に公認されてから一層明治維新に関わる大勢の武士に大きな影響を与えた流派であることを初めて知りました。



★剣道は武士が剣（日本刀）を使った戦いを通じ、剣の理法を自得するために歩む道を指し、剣の理法の奥にある武士の精神を学ぶことであり、剣の操法を厳しい稽古を通じて心身を鍛練することによって精神面、丈夫な身体、崇高なる人格などを養うのが剣道修行の目的で『人間形成の道』と言われているようです。剣道には五つの構え方があるということで真剣を使って見せていただきました。



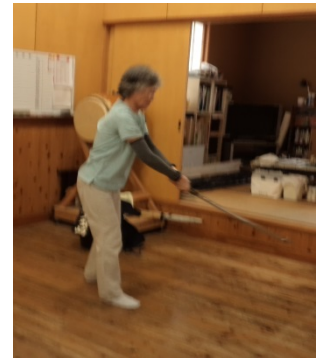
田中さん



野村さん



八千代さん



五反田さん



小林さんと吉野さん



伊藤さんと長澤さん

●戸賀崎正道館主からのお話と実技を一通り終えて、振り返ると、館主がお話しされたように、剣道は年齢に関係なく自分を鍛錬することのできる武道だと思いました。人間死ぬまで勉強だという郷土の偉人本多静六博士の言葉が蘇ってきました。最後に戸賀崎正道館主及び奥様にお礼の拍手をもって見学会を終わりました。



## 「徳川12代将軍家慶社参と中里村・医師高橋正案」

(H29. 11. 11 栗橋公民館)

郷土コースで学んだ田中さん、野村さんは、卒業後、地元の歴史の発掘に取り組んでいます。私も歴史が大好きなのでお二人から学ぶきっかけを作っていただき、いつも帰ってからインターネットなどを開き勉強させていただいて、新たなことを知り「よかった」といつも感謝しています。先人たちが積み上げてきた結果として今日があり、その歴史も誰かが後世に残していかない限り、埋没してしまいます。その歴史を伝え残すのは現代人の役目だと思いますので、田中さんたちが古老を訪れて昔のことを聞き取って積み上げていくことは大変な作業だと思いますが、これからも長く続けられることを願って止みません。今日は栗橋歴史同好会の田中さんの研究発表をご紹介します。ここに紹介するのは田中さんのレジメとは違った形で自分が勉強するためのまとめ方をしています。

●社参とは何か＝元和3年(1617)、江戸幕府初代将軍徳川家康が日光東照宮に祀られて以降、将軍自ら日光まで足を運び参詣することを「社参」と呼びました。社参は江戸時代を通じて計19回実施されました。主に徳川家康の命日である4月17日に参拝するように実施されています。

★コース主に用いられた行程は、江戸城を発つと、まず日光御成街道(日光御成道)を進み、初日は岩槻城に宿泊。さらに次の日は、幸手宿近くで日光街道(日光道中)に入り、二日目は古河城に宿泊。三日目は宇都宮城に宿泊。四日目に日光に到着。日光には連泊し、復路は往路を逆に辿る合計8泊9日の行程であった。

★日光社参には、膨大な経費を要した。供をする大名や旗本、動員される人馬も膨大(200億円、お伴14000人)である。例えば、安永5年の将軍家治の社参の際には、行列の先頭が日光にあるときに、最後尾はまだ江戸にあったとも言われている。近在の農村からの人馬徴発も、日光社参の時期は農繁期に重なることが多く、大きな負担になっていた。これは

ほどの大事業を成し遂げることは、徳川家の権威を、大名から庶民に至るまで広く知らしめる効果が絶大であった。しかし、第四家綱の後、幕府の財政に余裕が無くなると、その頻度は低下していった。67年ぶりに1843年(天保14年)4月に将軍徳川家慶が社参。最後の日光社参。

★日光社参と栗橋宿の係わり＝江戸時代の栗橋の地は、五街道の一つである日光街道栗橋宿として発展。またこの地は利根川の渡河点でも



あり、交通の要衝であることから、江戸幕府によって人や物資の往来を管理するための関所が設置された。栗橋関所は、明治2年(1869)に廃止されるまで、江戸幕府の交通・流通支配を担う拠点として機能した。社参や代参等の幕府の公式な日光参詣の際には、日

光御成街道や日光街道がその移動経路の中心となり、多くの人や物資が往来しました。日光街道上に位置し、利根川の渡河点でもある栗橋関所にとって、将軍や諸大名の通過のための準備や対応は重大任務の一つでした。

江戸時代の利根川の渡河は、増水時に橋が流されてしまう技術水準上の制約や、江戸防衛上の観点等から、恒常的な橋梁は設置されず、通常は渡船による通行が行われていました。栗橋関所と中田宿（茨城県古河市）の間の利根川渡船は「房川渡」と呼ばれていました。しかし、将軍が通過する日光社参時には、

大量の人や物資が通行することから、その渡船場付近には臨時の船橋が設置されました。将軍社参時にのみ設置された房川渡の船橋は、社参を象徴する建造物であり、絵図等にも多く記録されています。この工事を八甫村・渡辺七左衛門、松伏村・石川健三郎が請け負っている。

★社参の帰路 各地で施し＝将軍の人気取り政策として施しを実施している。中里村の医師・高橋正案は東国飢饉のときに、この地でも苦しめられ、村では加えてはやり病が大流行、正案は大釜に薬草を煎じ無料で薬を与え見事はやり病を退治した。地元では評判の高い医師で、同業者にねたまれて毒殺されたという噂がたったという。そんなこともあって将軍から銀10枚、母親には常米五合生涯の施しを受けた。正案は一族とともに船橋を渡ることを許された地元の資産家とも言える。高橋家の屋号は醤油屋で子孫が潰してしまっただが、その敷地に正案の墓がある。その後の2度の移転で墓の現在地を田中さんグループが探し出した。

●今回も田中さんが地元栗橋の歴史を発掘して発表されました。前回の9月は、野村さんと地元「久喜市にある神道無念流戸賀崎氏練武場遺跡と恵文館道場」を訪れ、個人の所有する文化遺産を見せていただき、その歴史を垣間見ることができました。

地域には地域の歴史があり、その一部に過ぎないにしても、知ることによって何か得したような気分が駆られるのが常です。何も知らない私たちにとって「知ることの魅力」は好奇心の何物でもないのです。この好奇心こそが認知症予防にも繋がっています。みなさんも住んでいる地域の歴史を紐解いて知らないことをどんどん吸収して脳を活性化させてみてはいかがでしょうか。



## 青毛堀川沿いの河津桜を見る

(H31. 3. 12)

専科一期の会郷土コースのクラス会として昨年同様に野村さんが案内してくれた。昨年の3月11日に実施した青毛堀川の河津桜花見会と同じコースである。相手が桜なので最初から予定日を設定するのは難しいのだが、昨年4月10日定期総会の日で今日のクラス会を設定して今日の実施にこぎつけた。昨年と同様に、昨日は大雨が降り、どうなるかと思ひしや晴れ男の野村さんの企画なので、3月2日の結城市散策に続いて見事に天気も回復して青空の広がる桜日和となった。鷺宮駅に降りた時に今日は何人参加してくれるのか気がかりだったが、何と12名の方が参加してくれたのには驚いた。特に田中忠さんが奥さんを連れての参加にはびっくりする以外なかった。これであってこそ長年連れ添った老夫婦というものであろうと実感した。また、女性5人が初めて参加してくれたのにも驚いた。案内してくれる野村さんにとっても嬉しい限りだと思う。だからこそ何よりも一番嬉しかったことは元気に再会できことである。

先週の結城市もそうだったが、昔は賑わっていた駅前通りは、どこにも見られる寂れた通りとなっている。野村さんの案内で寂れた通りを横切り、青毛堀川沿いの桜狩りとなった。何時ものことながらHP用の集合写真を一枚撮らなくてはと思い、途中の桜の満ちている土手で撮る。田中忠さんの「口癖」である、カメラ一台でHPが引き立つという教えを実践して普段でもカメラを持ち歩いている。川堤の桜並木の終わる辺りで植物に詳しい友が土筆や野蒜を積んできた。私も土筆を見るのは今年初めてなのでじっくりと見てしまった。やがて青毛堀川ともお別れして青空の下の今年の花見は終わった。



## 郷土コースオープン事業

# 浮きウキフェスタ 2019 行幸湖

(令和元年 10月27日)

行幸湖は、埼玉県幸手市、久喜市と茨城県猿島郡五霞町の境界にある調整池であると同時に、利根川水系一級河川権現堂川でもある。★1992年(平成4年)3月 調整池としての工事が完成。★2004年(平成16年) 彩の国まごころ国体のカヌー競技会場となる。★2007年(平成19年) 埼玉県営権現堂公園としての整備が完成。

平成21年以来、「水辺の再生」ワクワクイベントとして、★浮島づくり、★カヌー・ドラゴンボート水に親しむ体験、★手作り体験教室、★ちんどんパフォーマンス(幸手桜高校演劇部)、★マーチング披露(栗橋東中学校吹奏楽部)、★様々な出店等あり、地域起しを兼ねた秋のイベントとして開かれている。前上田埼玉県知事も力を入れた浮きウキフェスタである。



今回は田中さんのご厚意で、4月の総会後に郷土コースオープン事業として企画したものの日曜日とあって、皆さん外の用事と重なってしまったことなどで、私一人の参加となってしまった。行幸湖浮きウキフェスタ実行委員会委員長 田中 忠田さんには車2台も用意していただいたのに、私のPR不足でご迷惑を掛けてしまい申し訳ない。

さて、個人的には水辺のある風景が大好きな私は今回の企画を楽しみにしていた。埼玉県営権現堂公園について見れば、お天気に恵まれたイベントが様々な企画されており、これは地域起しのお祭りではないのと思ってしまうほどの賑やかさである。

実行委員長として忙しい中、田中さん一家にお会いして記念写真を最初に撮らせていただき、それ以降は自由に取材させていただいた。その状況を紹介させていただきます。



幸手桜高校演劇部の幸手市しあわせ応援大使



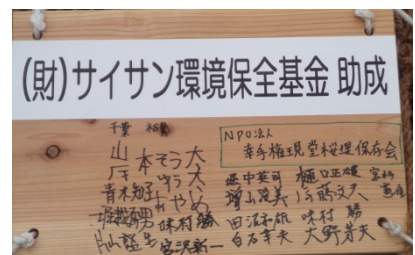
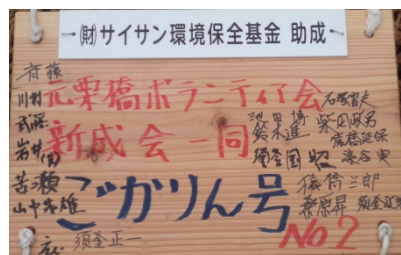
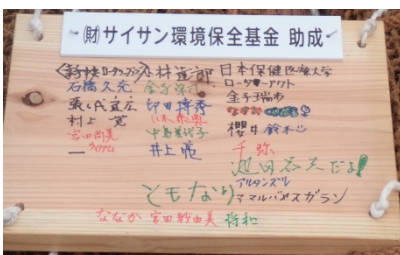


久喜市栗橋東中学校吹奏楽部

★平成30年度全日本マーチングコンテスト：銀賞、★マーチングバンド関東大会：金賞  
 ★サマーマーチングフェスティバル：優秀賞、★埼玉吹奏楽コンクール新人戦：金賞



カヌー・ドラゴンボート水に親しむ体験、



筏作成者・三艘





久喜市長の視察と激励



浮島を竹の上を滑らせ土手まで運びそこから竹の上を水面まで滑らせます。



浮島は、間伐材と竹を組み合わせたイカダに、木炭とアシの根を入れた袋を積み、水面に浮かしたものの。アシの成長と共に アシの根による水質改善作用と、茂ったアシによる「島」は、鳥や魚などの休憩場・隠れ場となり、新たな生物多様性空間を出現させる。





田中さんは花の苗を自宅で増やしては自治会イベントに寄贈しています。自治会の方は無料。部外者の私は一鉢50円を寄付させて頂きました。

田中さん達の南栗橋5丁目自治会出店

- ★旧友に会い秋祭り楽しみぬ
- ★秋風に乗る音色かなチンドン屋
- ★空高し迫力あふるブラスバンド
- ★秋の川カヌーを操る子供かな
- ★川の秋太鼓を叩くドラゴンボート
- ★秋晴れや筏を川へ押し出しぬ
- ★湖の秋や浮きウキフェスティバル
- ★試食せし味覚の秋や祭り来る
- ★コスモスに見向きもしない祭り人
- ★仲秋や浮島見ゆる行幸湖



今日のハイライト 丘の上の浮島で記念撮影

◆ 団体名：行幸湖浮きウキフェスタ実行委員会 19A-49

代表者：委員長 田中 忠

URL

1. 活動が必要とされた状況 行幸湖（みゆきこ）は、利根川と中川を結ぶ調節池（＝平地ダム湖）で、中川の洪水抑制（夏期）と工業用水と水道水の取水（冬期）に利用されている。夏期には水位の低さ（4 m）と流量の少なさから、水質が悪化しアオコが大量に発生する。また、5km にわたる 両堤防は、コンクリートブロックで護岸され、さらに夏冬の水位差が 7m もあり、岸边にも 水面にも植生にとぼしく、57ha（東京ドーム 12 個分）のダム全体が貧弱な生態系になっている。そこに水質改善機能を持つ「ビオトープ浮島」を設置して水質改善と生物多様性空間づくりを行う。

2. 活動の内容（実施時期、参加人数、活動内容など） 「ビオトープ浮島」（以下浮島）の組立・設置： 浮島は、間伐材と竹を組み合わせたイカダに、木炭とアシの根を入れた袋を積み、水面に浮かしたものだ。アシの成長と共にアシの根による水質改善作用と、茂ったアシによる「島」は、鳥 や魚などの休憩場・隠れ場となり、新たな生物多様性空間を出現させる。

10 月 30 日、市民団体・近隣企業・地元行政で構成される実行委員会（21 団体）が水辺再生イベント「浮きウキフェスタ 28」を実施。その一環として浮島を作り、湖面に設置した。浮島づくりには、小学生以下の子供 21 名を含む計 87 名が参加、4 班に分かれ 4 基の浮島をつくった。組み立てられた浮島は、竹のレールを使い湖面に投入（進水式）、ボートにより湖の中央に係留され固定された。

3. 活動の成果 今回設置された浮島は、アシの生える 1 年後以降でないと、水質改善、生物多様性空間づくりの効果は出ないが、平成 21 年にフェスタ開催以来、毎年設置された浮島の数はすでに 64 基あり、こうした既存の浮島と連動した効果の増加が期待される。浮島づくりへ参加した子供たちには、水環境の大切さや浮島のもつ役割など、浮島組立を通じて伝えることができた。

4. 今後に残された課題 広大な水面をもつ行幸湖のアオコ発生に対して、この数の浮島の水質浄化作用では決定的な効果は期待できない。しかし、生物多様性空間は着実に増え、その成果を見ることが出来る。アオコの問題にどう対処するか、今後の課題である。



田中 忠 様

体調の方はいかがですか。何しろ家族の為に頑張ってください。こちらも妻の脳腫瘍の後遺症と付き合っています。パトカーに2回もお世話になっているので、そうしないようにと買い物も2日間おきに行くことにして一緒に行っています。コロナの収束は目途も立ちませんが、家籠りして毎日パソコンと向き合う生活です。退職者会の役員会が月1回浜松町であるので行きますが、コロナを考えると嫌だなあとすることもありますが、専科1期の会の印刷物などで利用しています。

21日に最後の「校友会だより」と「会員それぞれの思い出」印刷してきました。今日は伊奈ヴォイスと伊奈いきいきネットクラブの活動終了について、専科1期としてまとめた「いきがい大学伊奈学園閉校の極み」を先月の役員会の時に2部作りしましたので、田中さんに記念に1部贈呈します。ここには田中さんのボランティア活動も出ています。21日に印刷した最後の「校友会だより」もカラーで2部作りしましたので田中さんに贈呈しますので読んでください。私の平成を振り返るカラーで印刷したものを送りますので読んでみてください。

私も6月15日に脊柱管狭窄症になって左足の脛に鈍痛が走るようになって6ヶ月にもならんとしていますが、治療に通っても良くなる気配は見られません。ウォーキングして自然に触れる機会を持たないのが一番つらいですね。

3年前から毎週金曜日午後1時から5時まで自治会の健康麻雀倶楽部に参加しています。認知症の人や現役時代の賭け麻雀の体質をそのまま持ち込んでいる人様々ですが、私はデータ麻雀をモットーに一期一会の世界を楽しんでいます。帰ってくれば妻のご機嫌斜めは何時もの事です。これも脳腫瘍手術の後遺症で人格が変わり感情の起伏の激しさには閉口しますが、受け止める以外ありません。

今年もあと僅かとなりましたが、お互いに健康に留意して希望の年を迎えたいものです。いろいろとお世話になりました。R2.12.23

#### ★12月24日の日記から

東京・浜松町の退職者会会議中に、突然、携帯に電話が入ったので廊下に出て話をすると、専科一期の会田中忠さんの息子さんからである。私の手紙をいただいたので全て読ませていただいたが、父は19日に亡くなったという報告である。私は絶句して痛恨の極みの慟哭を発してしまった。一年前に田中さんが末期がんであることを教えてくれた時より、毎月一度電話して話していたので、今月は専科1期の会「校友会だより」、「いきがい大学伊奈学園閉校は痛恨の極み」等を送り励まさそうと思っていた矢先なのに、彼も読まずに旅立ってしまったことに言葉を失った。

コロナの状況下なので葬儀はやらず、納棺式を26日に行うという。その場はお母さんも施設に入所しているので気を落とさずに頑張れよと言って電話を切った。何しろ早く帰って何かしなければとの思いにもかられたので、事情を話して会議を中座して帰ってきた。

再度、田中忠さんの家に電話して詳しく聞くと、26日朝8時から納棺式を行い子供二人で火葬場に行くという。それまでは家に安置しているとのことなので私も出席する旨を伝える。それから田中忠さんを見送る追悼文を書くことにして取り掛かり何とか書き終えたので、専科1期の会の皆さんに田中さんの訃報の知らせと追悼文をメール配信した。

## 追悼文

専科一期校友会初代会長・四代会長を務めました田中忠さん（郷土知るコース）が十二月十九日不治の病で逝去されました。

ホームページ委員として、専科合同ハイキングクラブ・専科合同グラウンドゴルフクラブ立上げに参加されて、奥様の介護の合間にクラブ活動に参加され軌道に乗るまで先頭に立って活躍されてきました。

私達の専科一期校友会が今日まで続いているのは、田中さんが校友会最初の理事会の挨拶で「専科一期校友会は、伝統を作るという役目が否応になくあります。学園の皆さんからも注目されていることでしょう。荷が重いと思いますが、みんなでその役目を果たしていきます」に始まっています。途中での校友会の改革では東京オリンピックまで続けようとの提案もあり、その実現に向けて会員一同がまとまり今日に至っています。

また、地元では南栗橋五丁目自治会会長、老人会「五楽会」会長、栗橋歴史同好会の会長等を務め、その傍らボランティア活動初め、浮きウキフェスタの実行委員長を長年務めていました。

昨年の浮きウキフェスタ二〇一九行幸湖取材に行き、田中さんお会いした時に、末期胃がんのステージ四で手術出来ないことを私に教えてくれました。私の足も震えてしまいましたが、それ以来、月一度は電話してお話をしてきました。それ故に東京オリンピック後の「専科一期生の活動記録「思い出の踏み跡」」発刊に伴い、会員の皆さんにも「思い出の記」を書いてもらうことも決めましたので、電話でお願いしたら、すぐに自分の心境を書いてくれました。私は涙なくしては読めませんでした。

十二月二十一日に「思い出の記」、「最終号の校友会だより」、「いきがい大学伊奈学園の閉校は痛恨の極み」（この中には田中さんの事もページ多くして掲載しています）を印刷し、田中さんを励ますために特別にカラー刷りにして二十三日にお手紙を送りました。手紙が届くや「お父さんが十九日に亡くなったという知らせが、私の出張先の会議室に入りました。先月に電話した時は、元気そうな声だったので、お互いに病の奥さんを抱えているので長生きしなくてはねと話したばかりでした。また、手紙にも体調の方はいかがですか。何しろ家族の為に頑張ってください。こちら妻の脳腫瘍の後遺症と付き合っています。今年もあと僅かとなりましたが、お互いに健康に留意して希望の年を迎えたいものです。いろいろとお世話になりましたと、書いたばかりなのにとすると、言葉もありません。

会議室から出て息子さんの話を聞き、私の心は震え慟哭した程です。突然の事ゆえに痛恨の極みです。

新型コロナウイルスが世界中に感染している状況下では通夜も告別式もままならず近親者のみで執り行うとのことでした。このことを専科一期校友会の皆さんにお知らせし、ここに謹んで哀悼の意を表するとともにご冥福をお祈り申し上げます。

田中 忠さんにはこれまでお付き合いいただいた友情に感謝し、最後に田中忠さんの御霊の永遠の安らかなことを祈りつつ「★オリオンや優しき君を忘れまじ」と一句添えて追悼の言葉とします。合掌

令和二年十二月二十四日 専科一期の会 岡村昭則

# 故田中忠さんの納棺式と見送り





# 田中忠さんが最後まで手を掛けた盆栽





# HP 委員として立ち上げた南栗橋五丁目自治会ホームページ

## 南栗橋5丁目自治会

自治会からのお知らせ
浮きウキフェスタ2019
東中学校定例運動会
お花見と花火の会
五葉会
遠瀬川取戻し
中川クリーン作戦

令和元 納涼祭
盆栽や草花
草履草愛好会

# 南栗橋5丁目自治会

10/6 栗橋地区体育祭 スポーツ公園 9:00～	10/13 防災パトロール 蓮沼公園 17:00～
10/27 資源回収 蓮沼公園 8:30～	10/27(日) 浮きウキフェスタ 第一公園 10:00～

「浮きウキフェスタ2019」は10月27日権現堂第1号公園で開催されました。五丁目売店では手作り手芸品、不用品、草花の販売が好評で、昨年を上回る成績でした。  
詳細は浮きウキフェスタのページでどうぞ



- ホーム
- 自治会からのお知らせ
- 浮きウキフェスタ2019
- 東中学校定例運動会
- お花見と花火の会
- 五葉会
- 遠瀬川取戻し
- 中川クリーン作戦
- 令和元 納涼祭
- 盆栽や草花
- 草履草愛好会





## 平成29年度 総会

31餅つき大会

30年中川公園グリーン作

ボウリング大会

12種地獄退会

浮きウキフェスタ30

南栗橋五丁目自治会 平成 29 年度総会

平成 30 年 4 月 1 日



田淵会長:自治会活動で 皆でやっていくものとして①ゴミ処理②福祉→めくばり③防犯・防災  
④教育→地域の子どもを地域が育てる  
今年度の重点活動・・・地域防災の充実  
防災「家具の転倒防止」「飲料水の確保」  
洪水「自分の身は自分が守る」  
知識を高める 「広報」を読む様にする

### 自主防災組織の充実のため「地域防災力向上」勉強会開催 4/28

長年自治会役員として活動 今年度退任された「田中さん・石渡さん・中村さん」



大変ありがとう

ございました！

- 1. 開会式
- 2. 環境フェスタ
- 3. 環境フェスタ
- 4. 環境フェスタ
- 5. 環境フェスタ
- 6. 環境フェスタ
- 7. 環境フェスタ
- 8. 環境フェスタ
- 9. 環境フェスタ
- 10. 環境フェスタ



- ホーム
- 自治会からのお知らせ
- 忘年会2019
- 新中学校定例委員会
- お花見と花火の会
- 五楽会
- 富田町実績
- 中川グリーン仲間
- 令和元 納涼祭
- 盆栽や草花
- 原稿受付同好会

### H31.4/16 春季グラウンドゴルフ大会 権現堂第一公園

年2回の大会は自治会からの補助をいただき、18名が参加しました。(ハンデキャップ制)  
 優勝 新土さん 第2位 斎藤ヨシ子さん 第3位 武田ふみえさん



### 10月の五楽会 中里村の歴史と男の振舞い料理 2018/10/22



木村さんが用意した「レシピ」を手際よくやって「時間どろり」に完成



料理が出来るまで  
 ● 田中さんの講話は  
 「中里村の歴史」  
 我が町栗桶を知る



- 第1回 研究発表会    第2回 静御前    第3回 利根川の近道    第4回 栗橋城物語    第5回 栗橋の近世史  
第6回 風の誕生    第7回 古代道路    第8回 寺社文化    第9回 静御前物語    第10回 市町村の合併  
第11回 家徳と正義    公民館発表会

ホーム

自治会からのお知らせ

湯けむきフェスタ2019

栗中学校定期運動会

お花見と花火の会

五車会

富源田秋実祭

中川クリーン作戦

令和元 納涼祭

笠鉾や草花

栗橋歴史同好会

# お知らせ！日本の国技 **相撲**



古来よりの相撲歴史をやさしく語る  
歴史講座を開催いたします

## 第1回 栗橋郷土史研究会・発表

日時 平成28年 7月18日(月) 午後 1:30~3:30

場所 イリス 2F 会議室

対象 聴講希望者 参加自由

定員 90名 当日 先着順

費用 無料

発表担当 加藤大政

連絡・問合せ 田中 忠 TEL 0480-52-6617 携帯 090-5200-0303

この活動は、久喜市市民活動推進補助会で 運営されています。

ホーム

自治会からお知らせ

区民フェスティバル2019

新中学校定期委員会

お花見と花火の会

五条会

富田地区実績

中川グリーン情報

令和元 納涼祭

盆栽や草花

藤崎園水同好会



7月4日、職員さんに二つ頂いた百合の球根から花が咲きました。大型の球根に見合った大きな花です。



うめもどき



紅梅

## 専科一期の会の皆様からいただいたお悔み

●岡村様 おはようございます。角田です。突然の田中さんの訃報に接し、まことに残念の一語に尽きます。専科1期は、田中さんという人材を得たことで、今日まで永らえたと言っても過言ではありません。今日、胃がんは5年生存率も高く、検査さえしていればと思うと勿体ないと感ずるのは私だけではないでしょう。「思い出の記」が入れ違いになったことも悔いが残りますね。今はただ、ご冥福を祈るばかりです。追 コロナ禍のもと、いつ自分が斃れるか分かりません。お互い、日常の感染予防に気をつけましょう。私も、自分史もどきの思い出話をまとめ、新年早々、兄姉4人に送る予定です。

●岡村様 田中忠さんの訃報は誠に残念、心よりお悔やみ申し上げます。岡村さんの追悼文のとおり、田中会長の専科1期交友会に対する思いと実績は大きな大きなものであり、感謝しかありません。東京オリンピックまで続けようの、田中さんの声にも励まされてきました。歴史は思いがけないことの連続ですが、それを乗り越えようと苦心することが生きている証なのでしょう。田中忠様のご冥福をお祈りいたします。合掌 蔦川忠義

●岡村様 お知らせ有難うございました。驚いております。昨年鷺宮駅から久喜駅まで桜の花見会にご夫妻でお元気に参加され、久しくお話させていただいたのに惜しい方を亡くしてしまいました。大変残念です。心よりご冥福をお祈りいたします。合掌 有村

●岡村様 追悼文拝見させて頂きました。専科一期校友会に多大な貢献をなされた田中忠さんのご冥福を祈ります。残念ですね・・・瀧澤

●郷土コースの田中忠さんの訃報を聞いて驚きました。田中さんのことは奥様の体調が優れないので専科の行事にも参加できないという認識で、改めて訃報をきいて本人が闘病されていることを知りました。

田中さんには岡村さんの追悼文にもありますように専科1期の会の会長として立ち上げから現在まで仲間結束の礎を築いてくれました。又、地域活動も盛んにされて皆様から信頼されていたのだと思います。

” 田中さん有り難うございます” 冥福を祈ります 合掌

健康づくりコース 伊藤盛夫

●ご子息様

まちづくりコース 小金澤憲男

お父上様の突然の悲報驚いております。

ご子息様ご家族のお嘆きの程お慰みの言葉も有りません。

全く急なことで信じられない気持ちです。皆様のご落胆はさぞかしと推察します。

お父上様とは平成21年伊奈専科1期の校友会発足の時お父上様が会長、小生が副会長として1年間活動しました。平成23年12月頃お父上様から専科グラウンドゴルフ部の立ち上げの話があり協力して何とかクラブを創設しました。現在もクラブ活動続いております。

まだ長生きされて活躍いただける歳でしたのに惜しんで余りあるものがあります。

ここに謹んで弔詞を述べお父上様のご冥福とお祈り申し上げます。

今年はコロナウィルスの感染者が拡大していますのでくれぐれもご自愛下さいますように。



昨年10月27日、郷土コース事業の浮きウキフェステ2019で実行委員長されている田中さんとお会いした時に、手術が出来ない末期の胃がんであることを打ち明けてくれました。それを聞いた途端に私の足が震えたことは言うまでもありません。

それから毎日のウォーキングの度に近くの薬王寺で一日でも長く生き延びてと祈願するとともに、毎月、電話をして励ましてきました。12月も励ましにと思って、募集して締め切った「思い出の記」を12/21に印刷し、すぐ製本にして送付しましたが、既に旅立っており、遺稿文となってしまいました。まことに痛恨の極みです。

伊奈いきがい大学

## 専科1期OB会10周年

田中 忠

OB会の皆さんの努力で専科1期校友会は10周年となりました。定年後の空いた時間の使い道やボランティア活動に興味を持つなど、動機や経歴が全く違う見ず知らずの方々が講義や見学会、行事などを通して交遊が深まり、OB会発足後も活発な活動を継続しました。楽しい体験をたくさんさせていただきました。そのなかで人一倍努力を惜しまず心を尽くしてくれた方が岡村さんです。感謝申し上げます。学園で驚いたのは学生証がある事とクラブ活動が必須であることでした。文字どおりいきがい大学でした。

私はこの10年で地元の自治会活動から趣味を深める活動を楽しみ充実した時間を過ごすことが出来ました。現在は全て退任し、唯一残された盆栽を楽しんでいます。昨年10月胃がんでステージ4とのことで手術は出来ず、抗がん剤治療となり3週間の入院となりました。12年間認知症の妻を世話してきましたが、副作用により介護が出来ず現在は特別養護老人ホームにお願いしています。振り返ると、いろいろなことがありました。この10年皆さんにも良いこと、悪いこといろいろあったと思います。コロナ禍のなかですが、残りの人生を有意義に過ごしたいと思っています。

---

「専科一期校友会初代会長・四代会長を務めました田中忠さん（郷土知るコース）が十二月十九日不治の病で逝去されました。私達の専科一期校友会が今日まで続いているのは、田中さんが校友会最初の理事会の挨拶で「専科一期校友会は、伝統を作るという役目が否応になくあります。学園の皆さんからも注目されていることでしょう。荷が重いと思いますが、みんなでその役目を果たしていきます」に始まっています。途中での校友会の改革では東京オリンピックまで続けようとの提案もあり、その実現に向けて会員一同がまとまり今日に至っています。田中 忠さんにはこれまでお付き合いいただいた友情に感謝し、最後に田中忠さんの御霊の永遠の安らかなことを祈りつつ「★オリオンや優しき君を忘れまじ」と一句添えて追悼の言葉とします。合掌 専科一期の会 岡村昭則



## 2021年4月発行予定の専科一期の会「思い出の踏み跡」

★田中忠さんに読んでいただけないのが残念です。地球という星の世界から家族を見守って下さい。オリオン座を見る度にあなたのことを思い出すでしょう。

